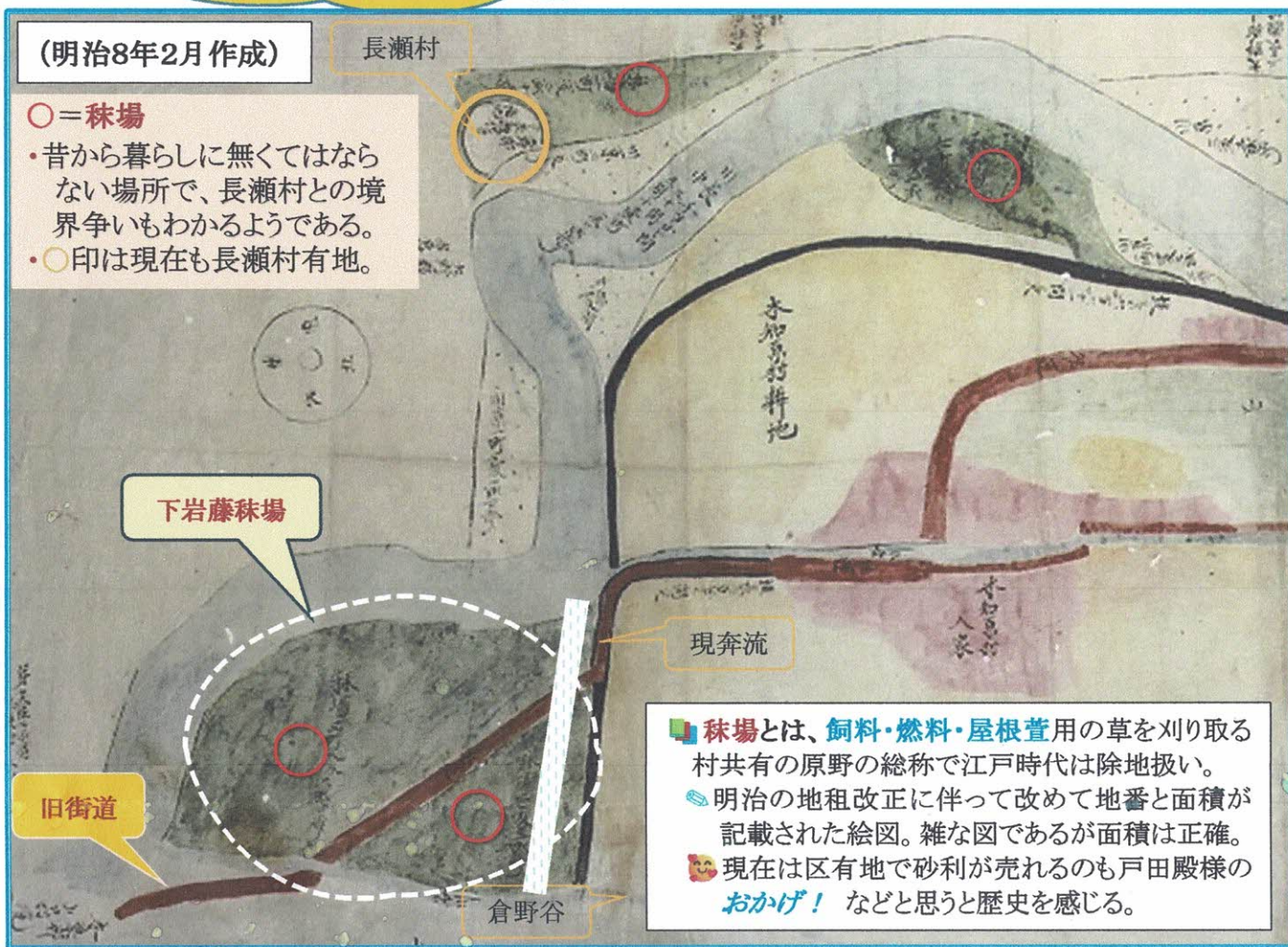


木知原の今昔！

58号25:3-7

まぐさば 秣場って何？



(明治8年2月作成)

長瀬村

○=秣場

- 昔から暮らしに無くてはならない場所で、長瀬村との境界争いもわかるようである。
- 印は現在も長瀬村有地。

下岩藤秣場

現奔流

旧街道

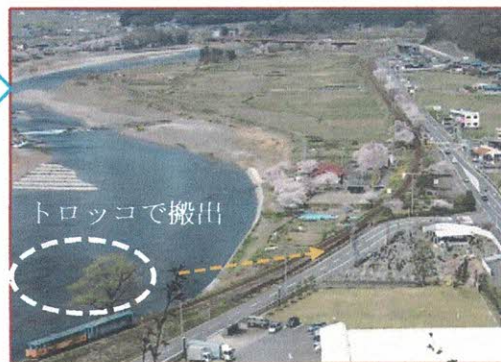
倉野谷

- 秣場とは、飼料・燃料・屋根葺用の草を刈り取る村共有の原野の総称で江戸時代は除地扱い。
- 📄 明治の地租改正に伴って改めて地番と面積が記載された絵図。雑な図であるが面積は正確。
- 👤 現在は区有地で砂利が売れるのも戸田殿様のおかげ！ などと思うと歴史を感じる。

下 岩藤の秣場は中央に往還(旧道ぎふ道)が通っており、江戸時代は人通りが絶えなかったと言わなければならないような話である。今の川筋がいつ出来たかわからないが昭和25年頃までは“中州”と呼び柳や雑木が生い茂りウサギ・タヌキ・キツネが住みついていた。

📄 畑もありサツマイモや麻が栽培されていた。

👉 秣場の砂利が樽見鉄道土盛に！



木 知原は秣場の土砂提供や耕地分断の犠牲を払ったにもかかわらず“たった2つのいいえ！”????

「急勾配は無いか？・駅間の距離は十分か？」で駅が出来ずただの通過地となり外山村中が大ショックであった。

村の駅！ 誕生

👤 村長はじめ木知原村の代表者

が国鉄名古屋機関区まで何度も陳情にでかけやっと一年後の昭和33年に駅が開業したのである。但し、「費用は村負担」が条件であったので全国でも珍しい「村の駅」・「ひらがなの駅」の誕生であった。駅の構造がどこか“仮設”に見える裏事情がこれである。

- 👤 駅完成時にはもちつりで祝った。現在園部さんが駅長として維持管理に勤めておられるのも“村の駅”だからです。アジサイも植えられ一段ときれいになることでしょう。
- 🚶 陸橋を渡って谷汲口から利用していた通勤通学者にとっては“夢の駅”であった。

